

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者:70代 男性 要介護1

利用期間:平成31年1月入居大動脈弁閉鎖不全症

主疾患:慢性閉塞性肺疾患・変形性脊椎症・前立腺肥大

経過:「白癬」の診断を受けた入居者さんを、介護職と看護職が中心となって取り組むことにより早期改善を実現したこと。また、それ以上に利用者さんに関わる時間が増えたことにより、利用者さんの寂しい気持ちを埋めることができた症例。

内 容

湘南慶育病院より平成31年1月に当施設へ入居される。入居時からほぼ自立可能であり居室で過ごされている事が多く、職員との関りも乏しかった。令和元年10月頃、入浴時に担当職員へ、足の痒みを訴え担当職員より看護師に報告。看護師とご本人と相談し湘南慶育病院の皮膚科を受診。受診結果は、「白癬」の診断を受ける。施設で出来ることはないかと、介護職と看護職で考え、「カテキン効果で水虫撃退」プロジェクトを立ち上げる。

①月・水・金の個別入浴後は、看護師が処置(軟膏とガーゼ保護)。

②火・木・土・日の入浴のない日は、介護師士が緑茶(カテキン)入りのぬるま湯(10ℓのバケツにぬるま湯20粉末用緑茶大匙3杯)にて足浴を行いその後看護師が処置。

2～3ヶ月はかかりましたが、「白癬」は改善されました。もともと自立で職員との関りが乏しい利用者さん、今回の事をきっかけにコミュニケーションが取れるようになりました。介護職は足浴中に、看護師は処置中に世間話や身の上話などを傾聴し和やかに過ごせる時間を作りました。話しを聞いていくうちに、現在利用者さんの奥さんは湘南慶育病院に入院されており余命宣告を受けている状態であることを話してくれました。精神的に安定していると思っていたが、実は辛い状態であった事を知りました。それ以降、利用者さんは、たくさんのいろんなことを話してくれました。

今回は「白癬」を治す為にどうすれば良いかを介護職・看護職で一緒になって考え、対応したことが早期の改善に繋がったと思います。ですがそれ以上に、傾聴することにより、利用者さんとの関係が深まり、利用者さんの寂しい気持ち(奥さんの死期が近づいている)を聞いただけでも、利用者さんの心はずいぶん軽くなったと思われることが一番良かったことだと思います。

奥さんは昨年末に亡くなりました。利用者さんは一時とても元気がありませんでしたが、今はずいぶん元気を取り戻しています。今でもときどき足が「痒い」と言って足浴と軟膏処理をしていますが、その姿はとても楽しそうであり、キラキラと輝いています。